

■女 浪 人 (六 卷)

帝キキ 芦屋時代映畫

原作者 小國 比沙志氏
脚色者 木村 一馬氏
監督者 江後 岳翠氏
撮影者 鋸本 榮一氏

主要役割

關根雪江 柳まさ子嬢
兄七郎 片岡 紅三郎氏
浄破瑠長五郎 阪東 豊昇氏
娘織野 二葉 菊子嬢
江東伊賀守 實川 延笑氏
嵐 お愛 山下 澄子嬢
燕 傳次 嵐 運兒氏
飯腕の辨吉 岩井 竹籬氏
け組の銀太 片岡 童十郎氏
田沼主膳 中村 飯曉氏

【略筋】雪江の父は、燕と呼ばれた小太刀の名手であつたが、日頃の剛直が災ひ、田沼主膳の兇奴に忤り家傳の寶刀郷義弘に奪はれた雪江は兄と共に仇討に出發したが兄は酒のために妹と別れた。妹は健氣にも鐵心齋の下に修業し免許の腕前になり名も八郎と改め銀太の助けを得て仇主膳を討取り寶刀をとり戻す事が出来た。翠朝雪江は裁きを受けるため出頭した時其役人こそ今改心してゐる、兄の七郎であつた彼は妹を逃がし其罪を受け自害した。

全體としての物語はもう少し面白いものになり相に思はれるが、徒らに冗長に流れ退屈な映畫になつて了つて居る。之には勿論脚色の失敗もあらうが、それ以上に俳優の昏弱さが折角の見

出場をダラして了つた事に起因してゐる。柳まさ子嬢の覆面の若侍はど見ても大江戸を騒がせる神出鬼没の観師さに見えない。第一ガラから云つても演技から云つても九段邊りの女観舞紋のものである。他に適當な俳優がないのかも知れないが、柳嬢にはサト衛が重すぎる。嵐 璃運兒氏の燕傳次はもう後、片岡紅三郎氏片岡童十郎氏はよく付き合つて居る。一葉菊子嬢の織野は何さな危つかしい。大いに勉強を要する。

—— 津田 時雄 ——
興行價値 — 柳まさ子嬢の一人芝居に近きものであるから柳まさ子嬢の人氣に準ずべき映畫である。(五月十三日 大阪 芦屋劇場 いろは座 神戸 相生座封切)